

演習1-1

解答-イ

IT パスポート 平成24年度秋 問83

- aは、正規の利用者が情報を利用しようとしたときに利用できなかったのですから、「可用性」が守れなかったことになり
ます。
bは、情報漏えいから情報資産を守れなかったのですから、「機密性」が守れなかったことになり
ます。
cは、情報が改ざんされていたのですから、「完全性」が守れなかったことになり
ます。

別冊テキスト p2 へ

演習1-2

解答-ア

情報セキュリティマネジメント 平成28年度秋 問5

“可用性”は、許可された者が、必要ときに情報にアクセスできることを確実にすることで、正規の利用者が情報を利用し
ようとしたときには、いつでも情報にアクセスすることができることです。
解答以外の選択肢は“機密性”を高めるための管理策です。

別冊テキスト p2 へ

演習1-3

解答-イ

情報セキュリティマネジメント 平成29年度春 問24

JIS Q 27000:2014(情報セキュリティマネジメントシステム—用語)の「2 用語及び定義」には、「2.62 信頼性(reliability) 意図
する行動と結果とが一貫しているという特性。」(定義a)、「2.8 真正性(authenticity) エンティティは、それが主張するとおりの
ものであるという特性。」(定義b)、「2.9 可用性(availability) 認可されたエンティティが要求したときに、アクセス及び使用が可
能である特性。」(定義c)、「2.12 機密性(confidentiality) 認可されていない個人、エンティティ又はプロセスに対して、情報を使
用させず、また、開示しない特性。」(定義d)と記述されています。

別冊テキスト p2 へ

演習1-4

解答-ア

情報セキュリティマネジメント 平成29年度秋 問11

JIS Q 27000:2014 では、否認防止を、「主張された事象又は処置の発生、及びそれを引き起こしたエンティティを証明する能
力。」と定義しています。

選ばれなかったものは次のとおりです。

- イ 可用性の特性に関する記述です。
- ウ 機密性の特性に関する記述です。
- エ 信頼性の特性に関する記述です。

別冊テキスト p2 へ

演習1-5

解答-イ

基本情報 平成26年度秋 問36

選ばれなかったものは次のとおりです。

- ア 不正アクセスの手段などに関する記述です。
- ウ ブルートフォース攻撃に関する記述です。
- エ バッファオーバーフロー攻撃に関する記述です。

別冊テキスト p4 へ

演習1-6

解答-ア

情報セキュリティマネジメント 平成29年度春 問21

選ばれなかったものは次のとおりです。

- イ キーロガーに該当します。
- ウ 辞書攻撃に該当します。
- エ パスワードリスト攻撃に該当します。

別冊テキスト p4 へ

演習1-7

解答-ア

IT パスポート 平成21年度秋 問66

選ばれなかったものは次のとおりです。

- イ、ウ 技術的脅威に該当します。
- エ 人的脅威に該当します。

別冊テキスト p4 へ